

「生きる力を育成する教育の創造」

～ 学び合いのかたちの効果的な活用を通して ～

I 主題設定の理由

昨今の多様な価値観や考え方を含んだ社会の中で、主体的に相互理解を深めながら豊かな人間関係を形成し、明確な意思の下に真の「生きる力」を身につけていくことは、本校の生徒にとってとても重要な課題である。また、新学習指導要領では「生きる力」は確かな学力と豊かな心、健やかな体の調和に基づいて育まれるとされており、まさに本校の校訓である「自立創造」を具現化するものである。昨年度の学校評価による課題からも、生徒が積極的に発言・意見を言える、主体的に学び、互いに学び合いながら高め合うことのできる環境づくりは必須であることが分かる。そこで今年度は、昨年度までの取り組みを継続的に行うとともに、各教科で「学びあいのかたち」を授業の中に効果的に取り入れることで、基礎基本の定着を図りながら生徒相互の高めあいの場面を設定し、昨年度までの課題解決を図りたいと考え本主題を設定した。

II 研究仮説

生徒の実態や各教科（単元）の特性に即した学び合いのかたちを授業に取り入れることで、確かな学力（思考力・判断力・表現力）の定着とともに、学びに対する主体性の向上が図れるであろう。

III 研究の内容

1 学び合いのかたちを効果的に取り入れた授業の工夫

- ・ 自己表現，相互交流できる集団の育成
- ・ 学び合いにより相互向上が図れる集団の育成
- ・ 心内，ペア，グループ，クラス集団等でできる授業形態の工夫
- ・ 話し合いの進め方の確認，定着
- ・ 生徒相互のやりとり，ディベート，発表会等の場の設定

2 研究授業の実践

- ・ 2学年 道徳研究授業（9月）
（義務教育科指導主事・峡東教育事務所指導主事）
- ・ 1学年 保健体育科研究授業（12月）
（峡東教育事務所指導主事）

3 各教科「実践報告シート」の作成

- ・ 「学び合い」設定の理由（予想される効果）
- ・ 「学び合い」の形態・授業の流れ，授業後の反省等

- 4 事前・事後アンケートの分析
・6月，1月学習に関するアンケート実施

IV 成果と課題

1 成果

- 学び合いの形を効果的に取り入れた授業の工夫という点については，2回の研究授業からもその成果が伺えた。

道徳の授業においては，まず各自が自分の考えや意見を明確にすることから始まり，それを4人グループという小集団の中で発表しあうことで，他者の考えを受け入れ，そこから自分の考えを深める作業が行われた。また，相反する考えを提示し合うことで，新たな価値観や考えを見出すグループもあった。保健体育科の授業においては，ハンドボールという競技を通して，各チーム自分たちの課題に沿った練習メニューを考え取り組んでいた。また，実践的なゲームとゲームの間に，チームごと話し合いを持ち，課題を出し，次のゲームには具体的にどのように臨んでいくのかを明確にして取り組むことができた。その過程に重点が置かれたため，チームごとの話し合い（学び合い）が行われた前後では，生徒の意識に明確な違いが現れていた。

どちらの授業においても，単元や課題に対して効果的に学び合いの形が取り入れられたことで，有効性を実証できた。

- 各教科による「実践報告シート」を作成することで，昨年度の校内研究の成果である「授業仕組みシート」も含め，各教科，各単元の学び合いの効果的な活用場面を蓄積させることができた。
- 事前アンケートを行うことで，現状での本校生徒の課題，校内研究で取り組むべき課題が明確となった。また，事後アンケートから，学び合いの形を取り入れることで，生徒自身が深まりや広がりを実感していること，自分の考えや意見が相手に伝わったと感じている生徒が増加したことも成果としてあげられる。

2 課題

- 研究仮説にも先述したような，学びに対する主体性については，小集団の中では効果が見られたが，根拠の明確化や授業に対する積極的な姿勢にはつながらなかった。個人がより根拠を明確におさえたり，積極的に考えを発信したりできる授業の工夫が必要である。

V 成果物

- 1 各教科「実践報告シート」
- 2 2年道徳指導案・1年保健体育科指導案

（研究主任 平山直樹）